

11月どりブロッコリー品種比較現地実証ほの結果

三浦半島地区事務所・普及指導課

三浦半島は秋冬作のダイコン、キャベツ産地として有名ですが、ブロッコリーも多く栽培されています。ブロッコリーは、県内では12月から収穫が本格的になりますが、近年、夏の暑い時期に種をまき、11月から収穫できる品種が販売されるようになりました。そこで、横須賀市長井の生産者ほ場に、11月どりブロッコリー品種の現地実証ほを設置して、この時期に適する品種の検討を行いました。

三浦市の過去10年の平均気温は、8月で0.7、9月で1.1、10月で1.6℃平塚より高いため、種まきの時期は平塚に比べ1週間以上遅くなります。今回は、8月10日に苗床に種をまいて、育てた苗を、9月6日に定植しました。

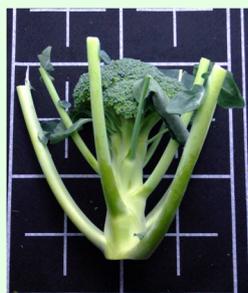
平成23年は、9月21日に台風の被害を受けましたが、その後は気温が平年より高く適度な降雨にも恵まれ、予定どおり10月末から収穫することができました。

検討した品種はいずれも、中早生（なかわせ）とされる品種です。各品種とも収穫日には幅がありますが、収穫期間の中心となった日は対照品種の「ピクセル」（サカタのタネ）で11月3日、検討品種の「おはよう」（同左）で11月5日、「ファイター」（ブロード）で11月8日でした。

これらの中で、特に「おはよう」は秀品率が高く、花蕾の形も良いなど、有望でした。



おはよう



ピクセル



ファイター



トップギア

サトイモ‘弥一’による地域農業の振興支援

足柄地区事務所・普及指導課

‘弥一’（一般名：弥市）は、開成町に生誕した瀬戸弥一郎氏が、大和の国の種芋を譲り受けて栽培したのが始まりとされ、近年、作付けが減少していましたが、昨年からは開成町が地域特産品化を進めています。弥一芋の栽培技術の向上や有利販売を図るための「開成弥一芋研究会」（14名）が生産者により設立されました。

足柄地区事務所では、野菜作物研究部の協力により優良種芋の導入や栽培指導、特性調査などの技術支援を行っています。現地で展示ほを設置し、他品種との比較や収穫期別の収量や食味について、県の地域ブランド創りのための事業も活用して調査を行いました。食味調査については町の飲食店組合代表や吉田島総合高校の学生にも加わってもらい実施してきました。

現在、‘弥一’は地域の直売所での販売を中心に、親芋の焼酎への利用も進められているところです。

今後も、町や生産者と連携をとり開成町の新たな特産品化に向けた取組について支援を行っていきます。



掘取の状況



食味調査会の様子